

平成30年度 第2回生駒市環境マネジメントシステム推進会議 記録要旨

1 日時 平成30年7月18日(水) 午前9時30分から午後5時

2 場所 生駒市コミュニティセンター 文化ホール

3 出席者

○生駒市環境マネジメントシステム推進会議委員

青木委員、奥田委員、楠下委員、楠委員、小宮山委員、桜井委員、寒川委員、新海委員、寺内委員、中畑委員、藤村委員、宮崎委員、矢田委員

○事務局

川島環境モデル都市推進課長、大窪環境モデル都市推進課長補佐、
天野環境モデル都市推進課主幹、大熊地球温暖化対策係長、竹田、鈴木

4 会議の要旨

○配布資料 ・会議次第

・資料1 「本日の作業の流れ」

・資料2 「環境マネジメントシステム推進会議における貴所属取組みへの評価結果について」(様式)

○事務局より本日の作業の流れを説明(資料1)

○環境モデル都市推進課ヒアリング監査

・平成29年度取組状況の説明

・2班からの質問と回答

◇環境モデル都市推進課に所属している職員の人数と仕事内容は？

→ 人数は臨時職員を含め10名。環境モデル都市に関すること、分散型エネルギーの活用や推進に関すること、環境基本計画の策定と推進、環境マネジメントシステムの運用管理、再生可能エネルギー活用の普及啓発、環境教育の推進、環境活動の支援、環境審議会に関することを所管する。

◇個別事業で「リユースびん商品の普及」と「民間事業者の省エネルギーの推進」の2項目が計画より遅れているが、実施状況とどのように遅れを取り戻すのか。

→ 「リユースびん商品の普及」はリユースびん入り「とわ茶」を生涯学習施設で販売していたが、省エネ性能を有し、かつ災害時に飲料可能な最新の自販機を設置し、「とわ茶」の販売を取りやめたことで計画より遅れが生じた。

今後は、会議やシンポジウム開催時に積極的に利用して、リユースびん商品の普及を継続する。

→ 「民間事業者の省エネルギーの推進」は、外部講師を招き、省エネの必要性和経営改善への応用セミナーを2月に予定していたが、事業者が活用する国の補助金の情報も合わせて紹介するほうが効果的と判断し、平成29年度の開催を見送った。

今年度は他自治体の実施状況等情報収集を行いながら、効果的な方法で情報発信をおこなう。

◇「とわ茶」にこだわる理由は。

→ 「ペットボトルが主流でリユースが認知されていない時期に、リユース瓶に地域特産の大和茶を詰めて販売して、経済振興につなげられないか。」との企画提案が本市にあり、NPOと共同事業でリユース推進の象徴と位置づけ、5年間取組んできた。自販機の設置については、自販機の設置をやめたときに比べると、省エネ性能が向上していること、施設利用者から自販機設置の要望が多かったことから、現在は設置しているが、引き続きリユースびんの啓発も継続していきたいと考えている。

◇「民間事業者の省エネルギーの推進」の課題と改善のところでニーズの把握の必要性が上げられているが、どのような方法を考えているか。

→ 工場、事業場の事業活動で使用している設備、照明などを最新の機器に代えることでどれだけ効果があるかを伝えて、事業活動の中で省エネを進めてほしい。本市の場合、CO₂の排出源は家庭が最も多く、重点的に取組んでいるが、次いで事業者の電気消費量も多いので、設備入替時の補助金の情報も含めて、コスト削減に結びつくことを伝える。学研生駒工業会を通じて働きかけるなどの方向性でこのセミナーの企画を考えている。

◇出前授業の申込みが少なかったとあるが、メニューが多いため申し込みにくいのか。

→ メニューは環境分野に限らず幅広く行政の取組が並んでいて、先生方に環境分野を選択してもらってPRが不足している。環境モデル都市推進課の出前講座の特色は、近畿大学との包括連携により学生と一緒に出前講座を行うことを目玉としている。

◇フードドライブに取組まれているが、受け入れ先の福祉施設やこども食堂の声は。

→ メニューの種類が増え、子供たちの好きな食材やお菓子が作れるようになり、とても喜ばれている。

◇フードドライブは定期的に行っているのか。

→ たけまるホールでは、毎木曜日に実施している。また、環境フェスティバルな

どのイベントでも実施している。

◇電気自動車の利用を促進させるための方策。

→ 現在、環境モデル都市推進課の専用車利用から、共用車利用として、他課の利用者の拡大を図るよう検討している。

◇帳票 3 別紙で庁舎に出入りする業者に簡易包装や弁当ガラの持ち帰り要請は、実施するのは難しいか。

→ 業者への容器回収依頼は行ったが、業者側の対応はまちまちで、1 業者のみ回収箱を設置して自主回収されている。

・その他の班からのヒアリング

◇帳票 2 の新エネルギー（20 太陽熱、31 BEMS、33 CEMS、40 コミュニティバス EV の更新、42 エコエネルギーステーションの開設など）で「検討」との記載があるが、「取組の成果」、「課題と改善方針」が空欄となっている。どこまで検討されたのか、スケジュールや最終的な着地をどのように考えているのかわからない。また、評価ではほぼ計画通りと書かれていることが理解できない。

→ それぞれの項目で事情が異なる。例えば 20 番の太陽熱利用システムの普及検討については、エネルギービジョンの取り組みの進捗では、太陽光発電設備と太陽熱利用設備は設置場所の取り合いの問題があるので、太陽熱利用設備まで普及に力を入れられていない。また、エネルギービジョンや環境モデル都市アクションプランでの目標は中長期目標を設定して進捗を管理しているため、単年度での進捗を記載することが難しいため、空欄としている。

◇去年の監査結果、帳票 3 の実施結果のグラフで P20 の 6 番、環境モデル都市推進課の所有する電気自動車を積極的に活用する項目で 30%の人が実施していないと答えている。他の項目と比べてもこれがワーストワンに当たる。

しかしながら、帳票 3 の 6 番の進捗では利用率ではなく利用実績だけが書かれていて、改善点は各課と早急に調整を進めると記載されている。目標と進捗が一致するように記載してほしい。また、電気自動車で CO2 をどれだけ削減できたかを庁内で把握できるようにして利用促進を図ると、もう少し利用する人が増えるのではないか。

→ 電気自動車の利用促進に関しては、ご意見を元に検討する。また、目標に対して結果が一致していないことに関しては、精査して次の会議までに報告する。

他課にもっと PR する必要があるがまだまだ十分取り組めていない。

以上。